

2. ≪「谷戸」と「江戸」に見る武蔵の原風景≫

まだ日本という国号がなかった時代、もちろん行政区としての武蔵国も存在しない時代のこと、その原風景を象徴する言葉があります。「谷戸」と「江戸」です。

「谷戸」は“やと”と読み、武蔵国（とりわけ神奈川県下）の丘陵地に刻まれた谷地形を指します。字義からすれば「戸」があるので、家々（集落）が存在する谷地形のことだと考えます。この言葉が、西日本でいう「里山」と同じ響きで使用されています。

またこの推論で行けば、「江戸」は河口にある集落を意味します。事実、隅田川河口に存在する浅草寺（せんそうじ）は、西暦628年創建と伝承されており、これは仏教伝来から約40年後のことになります（注1）。つまり、古くから河口に有力な集落が存在したわけです。

当時、西日本では、大規模なため池を築造するほど実力のある豪族が登場し、それら有力豪族からなる連合国家が誕生していました。この西日本からすれば、武蔵のあたりは、水の源流周辺に集落を作り稲作を行っていた辺境の地でした。

この連合国家が、中国の統一（注2）に触発されて、中央集権国家に変わります。それが、西暦645年に起こった「大化の改新」というクーデターです。これによって、「律令制」（注3）という国家体制が誕生し、全国に国を配置して統治することとなります。関東には8カ国が設けられ、その1つが武蔵国です。そして約半世紀後、西暦701年に「日本」という国号が確立しました（注4）。

注1：最初の本格的寺院である法興寺（飛鳥寺）創建は、西暦587年。

注2：隋が581年に中国を再統一。

日本は、607年、初めての遣隋使を派遣。

注3：「律」とは今でいえば法律にあたり、「令」とは政令や規則にあたります。

注4：701年に定められた大宝律令によって、初めて「日本」が国の名前として登場

Pより)

